



こうとく



2021（令和3）年度 学力特集号
2021（令和3）年 12月13日
北九州市立広徳小学校

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

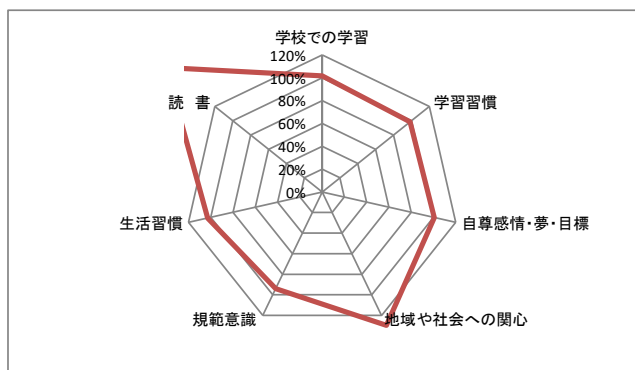
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	言葉の特徴や使い方に関する事項、話す・聞く能力、書く能力についてはいずれも全国平均を上回っているが、読む能力が全国平均を下回っている。	下回っている
算数	「図形」・「測定」・「変化と関係」・「データの活用」の領域については、全国平均を上回っているが、「数と計算」の領域については全国平均を少し下回った。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

毎日、同じくらいの時刻に起き、同じ時刻に寝る生活習慣が確立されてきている。しかし、長時間にわたってゲームをする児童が全国平均を上回っており、携帯電話・スマホやゲームとの付き合い方に課題がある。

地域の行事に参加している児童が多い。市民センターや児童館など様々なところでイベントが開催されていることで、児童が地域と触れ合う機会に恵まれている。しかし、新聞を読んでいる児童が少なく、社会への関心をさらに高めていく必要がある。

授業以外での学習時間は上昇傾向にあり、全国平均に近づいている。また、読書をする時間は全国平均を上回っている。自分で計画を立てて学習する力を育てていく必要がある。

タブレット端末を活用した学習により、学校でコンピュータなどのICT機器を高い頻度で使用していると回答している児童が多かった。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

「広徳漢字検定」の取組や読書活動を推進し、言葉に関する能力や読む能力の育成をめざして継続的に取り組む。授業の中に書く活動を取り入れ、自分の考えを記述したり、伝えたい内容を要約したり、多様な文章で表現したりする能力を高めることができるような学習指導の工夫を行う。また、タブレット端末を含めたICT機器を効果的に活用することで、興味・関心を高め、自ら取り組む力を育てていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

中・高学年においては、「自学ノート」の取組を推進し、自ら設定した課題について調べたりまとめたりする能力を伸ばしていくとともに、自主学習の習慣の確立を図る。ゲーム・スマホ等の付き合い方やルール・マナーについて、学級活動等を通して継続的に指導していく。各学年において、生活科や総合的な学習の時間で、地域の方や近隣の学校との積極的な交流を行い、シビックプライドの心情を育て、自分自身や地域を大切にできる児童を育てていく。